

モバイルおよびリモートアクセス(MRA)証明書の要件とApacheトラフィックサーバの履歴について

はじめに

このドキュメントでは、モバイルおよびリモートアクセス用のCUCMでの証明書のアップロード要件について説明します。

バックグラウンド情報

Cisco ExpresswayはApache Traffic Server(ATS)を使用します。トラバーサルソリューションでは、トラフィックサーバは非常に重要なコンポーネントであり、主に次の機能に使用されます。

- 証明書検証：MRAサービスに対して、Cisco Unified Communications Manager(CUCM)、IM & Presence、およびUnityサーバノードの証明書検証を実行します。
- プロキシ化とキャッシング：HTTP/HTTPSトラフィックに対して、高速でスケーラブルなキャッシングプロキシサーバとして機能します。

Expresswayバージョン14.0.2

トラフィックサーバ(ATS)がMRAのプロビジョニング中にCUCMと通信する際に、「証明書検証」のわずかな適用が見られるようになります。

この要件は、「[CSCvz45074](https://cdetsng.cisco.com/summary/#/defect/CSCvz45074)」に記載されています。この要件では、Expresswayコアサーバ証明書に署名したルート証明書を、CUCM上でTomcat-TrustおよびCallManager Trust(<https://cdetsng.cisco.com/summary/#/defect/CSCvz45074>)としてアップロードする必要があります。

- トラフィックサーバは証明書検証を実行します。
- X14.0.2リリースにアップグレードする前に、この証明書の要件が満たされていることを確認してください。

要件：Expressway-C証明書に署名した認証局(CA)チェーン(ルート+中間者)は、Unified

Communications Manager(UCM)が非セキュアモードであっても、CUCMのtomcat-trustおよびCallManager-trustリストに追加する必要があります。

理由：Expresswayのトラフィックサーバサービスは、サーバUCMが要求するたびに証明書を送信します。これらの要求は、8443以外のポート（たとえば、ポート6971、6972など）で実行されているサービスに対するものです。これにより、UCMが非セキュアモードであっても、証明書の検証が適用されません。詳細については、『[Expressway経由のモバイルおよびリモートアクセス導入ガイド](#)』を参照してください。

14.0.8より前のバージョンの動作

Expressway-Cとユニファイドコミュニケーションノード間のセキュアなHTTPS双方向接続を処理するExpressway-C上のトラフィックサーバが、リモートエンドから提示された証明書を検証しませんでした。MRA設定では、CUCM、IM & P、またはUnityサーバがConfiguration > Unified Communications > Unified CM servers/IM and Presence Service nodes/Unity Connection serversの順に選択して追加されたときに、TLS Verify Modeの設定でTLS証明書の検証を「On」にするオプションがあります。次のスクリーンショットに示されている設定オプションは、SAN内のFQDNまたはIP、証明書の有効性、および信頼できるCAによって署名されているかどうかを確認します。

また、同じCN名を持つ2つの証明書をExpressway信頼ストアにロードできないという既知の問題がありました。この制限により、次の2つの問題が発生しました。

1. Expressway信頼ストアにCall Manager証明書をロードすることを選択した場合、CUCMの追加中にTLS検証「オン」が失敗します。

2: Expressway信頼ストアにTomcat証明書をロードすることを選択した場合、5061でのセキュアSIP登録が失敗します。

この動作は[CSCwa12894](#)で文書化されています。

また、このTLS証明書検証チェックは、CUCM/IMサーバとP/Unityサーバの検出時にのみ実行され、MRAクライアントプロビジョニング中には実行されません。

この設定の欠点は、追加したパブリッシャアドレスに対してのみ確認が行われることです。サブスクリバノード上の証明書が正しく設定されているかどうかは、パブリッシャノードのデータベースからサブスクリバノード情報（FQDNまたはIP）を取得するため、検証されません。

CISCO Cisco Expressway-C

Status > System > Configuration > Applications > Users > Maintenance >

This system has 0 alarms

You are here: Configuration > Unified Communications > Unified CM servers > Edit

Warning: The CSRF Protection status is automatically enabled after the software upgrade. We recommend keeping CSRF protection Enabled. To change it, please log in to the CLI.

Unified CM server lookup

Unified CM publisher address: cucmpubnew.lomcat.com

Username: * comvadmin

Password: * *****

TLS verify mode: On

Deployment: lomcat.com

AES GCM support: Off

SIP UPDATE for session refresh: Off

ICE Passthrough support: Off

Save Delete Cancel

Currently found Unified CM nodes				
Name	UCM Version	Zone Protocol	Zone Status	Role
10.106.79.106	15.0.1.12960(234)	TCP	TCP Address resolvable	Subscriber
**10.106.79.102	15.0.1.12960(234)	TCP	TCP Address resolvable	Publisher

Information

If TLS verify mode is enabled, the Unified CM system's FQDN or IP address must be contained within the X.509 certificate presented by that system (in either the Subject Common Name or the Subject Alternative Name attributes of the certificate). The certificate itself must also be valid and signed by a trusted certificate authority.

Default: On

バージョン14.0.8以降での動作

X14.0.8バージョン以降、Expresswayサーバは、トラフィックサーバを介して行われるすべてのHTTPS要求に対してTLS証明書検証を実行します。これは、CUCM/IMおよびP/Unityノードの検出中にTLS検証モードが「オフ」に設定されている場合にも実行されることを意味します。検証が成功しない場合、TLSハンドシェイクが完了せず、要求が失敗します。その結果、冗長性、フェールオーバーの問題、または完全なログイン障害などの機能が失われる可能性があります。また、TLS検証モードを「On」に設定しても、すべての接続が正常に機能するとは限りません。これについては、後の例で説明します。

ExpresswayがCUCM/IMおよびP/Unityノードに対してチェックする正確な証明書は、『[MRAガイド](#)』のセクションに示すとおりです。

https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/expressway/config_guide/X15-0/mra/exwy_b_mra-deployment-guide-x150.pdf となります。

セクション

Certificate Requirements > Certificate Exchange Requirements

Expressway-CoreとCUCMの間で通信が行われる方法は次のように変更されているため、以下の点を確認する必要があります。

1. モバイルおよびリモートアクセス用にCA署名付き証明書を使用することをお勧めします。
2. 各Unified CMクラスタは、Expressway-C証明書を信頼する必要があります。各クラスタで、次のことを確認します。
 - 混合モードが有効になっている場合：Expressway-C証明書をUnified CMのCallManager-trustおよびTomcat-trustストアにインストールする必要があります。
 - 混合モードが無効の場合：Expressway-C証明書に署名するルートCA証明書をUnified CMのCallManager-trustおよびTomcat-trustストアにインストールする必要があります。次に、次のコマンドを再起動します。・ Tomcatサービス・ CallManagerサービス・ HAプロキシサービス (TomcatでTLSを使用している場合) 。

Expressway-Coreで、次のアクションが実行されていることを確認します。

- Expressway-Cは、各Unified CMおよびIM and Presenceサービスクラスタによって提示される証明書を信頼する必要があります。

Expressway-Cの信頼ストアには、すべてのUCクラスタのUnified CMおよびIM and Presenceサービス証明書に署名するルートCA証明書が含まれている必要があります。



注:UCMが非セキュアモードで動作している場合でも、Expressway-C証明書の署名に使用されるすべてのルートおよび中間CA証明書、または完全なCAチェーンをCisco Unified Communications Manager(UCM)のTomcat-trustおよびCallManager-trustリストに追加していることを確認してください。

理由：Expresswayのトラフィックサーバサービスは、サーバ(UCM)が要求するたびに証明書を送信します。これらの要求は、8443以外のポート (たとえば、ポート6971、6972など) で実行されているサービスに対するものです。これにより、UCMが非セキュアモードであっても、証明書の検証が適用されます。

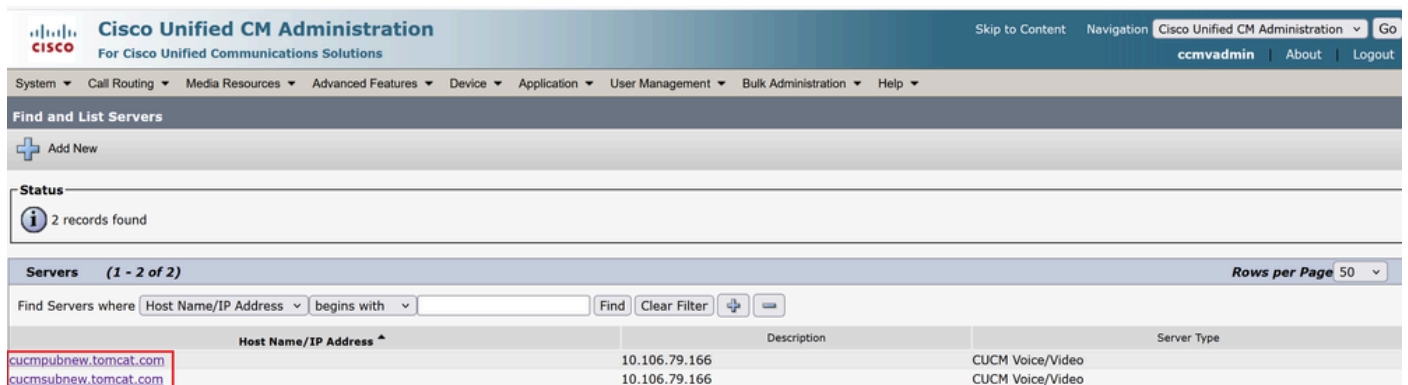
System > Serverの下にCUCMアドレスを追加する方法は、Configuration > Unified

Communications > Unified CM servers/IM and Presence Service nodesの下のExpresswayコアにCUCM/IMPを追加する際に非常に重要な役割を果たします。

CUCMは、ホスト名やIPアドレスではなく、常にFQDNで追加する必要があります。CUCMがSystem > Serverの下にホスト名/IPアドレスとして追加されることを確認した場合、

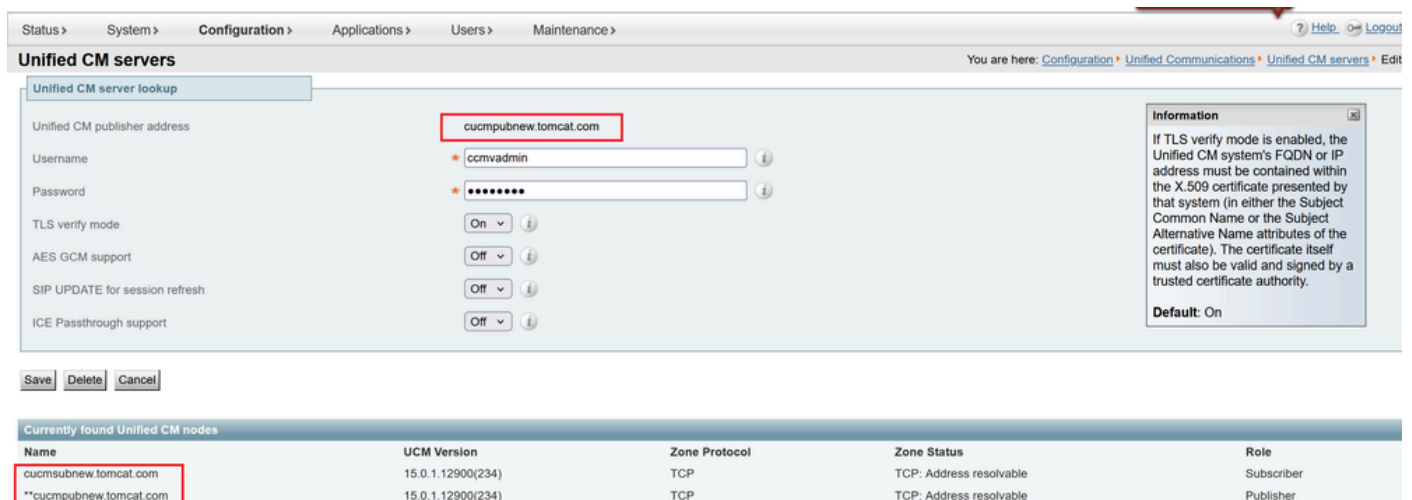
tlsハンドシェイク中にTLS検証「On」が失敗し、CUCMクラスタがExpressway-Coreに追加されない

次の図に、ホスト名として追加されたCUCMを示します。



Host Name/IP Address	Description	Server Type
cucmpubnew.tomcat.com	10.106.79.166	CUCM Voice/Video
cucmsubnew.tomcat.com	10.106.79.166	CUCM Voice/Video

次の図は、TLS検証モード= ONのFQDNを使用してExpressway-Coreに追加されたCUCMを示します。



Name	UCM Version	Zone Protocol	Zone Status	Role
cucmsubnew.tomcat.com	15.0.1.12900(234)	TCP	TCP: Address resolvable	Subscriber
**cucmpubnew.tomcat.com	15.0.1.12900(234)	TCP	TCP: Address resolvable	Publisher

また、X14.2では、TLSハンドシェイク(client hello)中に異なる優先順位で暗号を提示する変更が導入されました。これはアップグレードパスに依存し、ソフトウェアアップグレード後に予期しないTLS接続が発生する原因となりました。TLSハンドシェイク中のアップグレードの前に、CUCMからCisco TomcatまたはCisco CallManager証明書を要求している可能性があります。ただし、アップグレード後に、ECDSAバリエーション (RSAよりもセキュアな暗号バリエーション) を要求し

ています。Cisco Tomcat-ECDSA証明書またはCisco CallManager-ECDSA証明書は、別のCAによって署名することも、自己署名証明書のみで署名することもできます（デフォルト）。

この暗号の優先順位の変更は、Expressway X14.2.1の[リリースノート](#)で示されているようにアップグレードパスによって異なるため、常に関連するわけではありません。つまり、各暗号リストに対してECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384を付加するかどうか、Maintenance > Security > Ciphersの順に選択されます。そうでない場合は、RSA暗号よりも新しいECDSA暗号が優先されます。存在する場合は、以前と同様にRSAの方が優先度が高い動作になります。

次のスクリーンショットは、Client helloのTLSネゴシエーションメッセージ中にExpresswayコアによってアドバタイズされた赤いボックスのECDSA暗号で、「#IF TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384」がサーバhelloのリモートレスポンド(CUCM)によって選択され、次の場合にTLSネゴシエーションが失敗します。

レスポンドからのルートCA証明書または実際のECDSA証明書。つまり、この場合、CUCMはExpressway信頼ストアにインストールされません。

```
▼ TLSv1.3 Record Layer: Handshake Protocol: Client Hello
  Content Type: Handshake (22)
  Version: TLS 1.0 (0x0301)
  Length: 512
  ▼ Handshake Protocol: Client Hello
    Handshake Type: Client Hello (1)
    Length: 508
    > Version: TLS 1.2 (0x0303)
    Random: b82e6720580ae3f044e8bde95d5a0a2f68b240e720e5a75f4471cdfc25784cf8
    Session ID Length: 32
    Session ID: b18bb9a287a1cc5bcc1087470f608423d4ccd6710f276dff95e5faf613e4716d
    Cipher Suites Length: 66
    ▼ Cipher Suites (33 suites)
      Cipher Suite: TLS_AES_256_GCM_SHA384 (0x1302)
      Cipher Suite: TLS_AES_128_GCM_SHA256 (0x1301)
      Cipher Suite: TLS_CHACHA20_POLY1305_SHA256 (0x1303)
      Cipher Suite: TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (0xc030)
      Cipher Suite: TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (0xc02c)
      Cipher Suite: TLS_DHE_DSS_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (0x00a3)
      Cipher Suite: TLS_DHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 (0x009f)
      Cipher Suite: TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_CHACHA20_POLY1305_SHA256 (0xc0a9)
      Cipher Suite: TLS_ECDHE_RSA_WITH_CHACHA20_POLY1305_SHA256 (0xc0a8)
```

または、ECDSAが優先されないようにExpressway暗号を変更することもできます。

1. GCM-Sha384オープンSSL文字列を付加してSIP暗号を変更する。

'ECDHE-RSA-AES256-GCM-SHA384:EECDH:EDH:HIGH:.....!MD5:!PSK:!eNULL:!aNULL:!aDH'

2. 最後のプリファレンスで暗号を移動するには+を追加し、ECDSAを永久に無効にするには!を追加します。

暗号 : 'EECDH:EDH:HIGH:-
AES256+SHA:!MEDIUM:!LOW:!3DES:!MD5:!PSK:!eNULL:!aNULL:!aDH:+ECDSA'

3. CUCMでECDSA証明書に署名したルートおよび中間CA証明書を追加するか、Expressway信頼ストア (場合によっては) でTomcat-ECDSA証明書を追加します。

ただし、暗号の優先順位の変更により、アップグレード後にMRAの展開が中断する可能性があるため、TACは前述の回避策を実行して、動作を再開する必要があります。

TLS 1.3の導入により、Wiresharkで交換される証明書を確認することはさらに困難になりました。

x15.3バージョンの動作

SIPインターフェイスの場合のみ、RSA暗号またはECDSA暗号を選択できます。

X15.xでは、TLS 1.3が適用されています。フィールドに表示されているように、RSAアルゴリズムは主にECDSA経由で選択されます。x15.2にアップグレードされたお客様は、次の製品を選択できます

次のコマンドセットを使用したRSAアルゴリズムとECDSAアルゴリズムの間 :

xConfiguration SIP Advanced TlsSignatureAlgoPrefRsa : オン/オフ

TlssignatureAlgoPrefRSAは、SIPインターフェイスにTLS 1.3が設定されている場合にのみ機能します

xConfiguration SIP Advanced SipTlsバージョン : 「TLSv1.3」

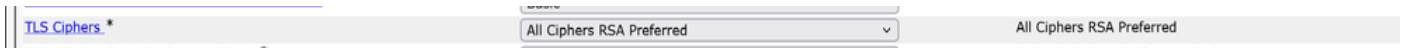


注 : 現在、これはSIPインターフェイスにのみ適用されます。8443のTraffic ServerとTomcatの考慮事項は、前述のとおり変更されていません。

ExpresswayによってCUCMに「client hello」の間に送信される暗号スイートは、RSAが選択されたときに示されたとおりになります。

- 署名アルゴリズム : rsa_pss_rsae_sha512 (0x0806)
- 署名アルゴリズム : rsa_pss_rsae_sha384 (0x0805)
- 署名アルゴリズム : rsa_pss_rsae_sha256 (0x0804)
- 署名アルゴリズム : ecdsa_secp521r1_sha512(0x0603)
- 署名アルゴリズム : ecdsa_secp384r1_sha384 (0x0503)
- 署名アルゴリズム : ecdsa_secp256r1_sha256 (0x0403)

以前の設定は、CUCMのEnterprise Parameters > Security ParametersでTLS暗号に対して選択した設定と並行して機能します。



また、Expressway-CとCUCM間のTLS 1.3を介したTLSハンドシェイクが破損している場合、診断ログまたはPCAPに出力されるエラーはあまり役に立ちません。TACの操作中にこれらのデバッグを有効にすると、コンポーネントがトラブルシューティングに明確なエラーを出力するようになります。

- x構成ロガー開発者developer.trafficserver.httpレベル : 'DEBUG'
- x構成ロガー開発者developer.trafficserver.http_transレベル : 'DEBUG'
- x構成ロガー開発者developer.trafficserver.iocoreレベル : 'DEBUG'
- x構成ロガー開発者developer.trafficserver.sslレベル : 'DEBUG'

CallManagerが1つの証明書を複数のサービスと共有する場合の処理

CUCMで証明書を再利用すると、状況が少し変わります。

CUCM 14.0以降では、TomcatおよびTomcat ECDSA証明書をCallManagerおよびCallManager ECDSAとして再利用できます。

Tomcat証明書はCallManager証明書として再利用できます。

Tomcat-ECDSA証明書は、CallManager-ECDSA証明書として再利用できます。

これにより、生活が楽になります。

1. CUCMの複数のサービスが1つの証明書を使用するようになったため、証明書のコストが削減されました。

2. 証明書の管理が少ない。

3. Tomcat/CallManagerまたはTomcat-ECDSA/CallManager-ECDSA証明書を (何らかの理由で) Expressway-Core信頼ストアにアップロードする必要がある場合、アップロードする必要がある証明書は1つだけです。同じCN名の問題が発生しても問題はありません (このドキュメントで前述) 。



注：証明書の再利用は、TomcatおよびTomcat-ECDSAがマルチSAN証明書である場合にのみ発生します。

Post Reuse、CallManager、およびCallManager ECDSAサーバ証明書は、CUCM信頼ストアには表示されません。次のコマンドを実行することで、CLIから証明書の再利用を検証できます。

show cert own CallManager (登録ユーザ専用)

show cert own tomcat (隠しコマンド)


証明書を再利用する手順

Tomcat CSR pub addを生成しています。

Certificate Details for cucmpubnew-ms.stark.com, tomcat

 Regenerate  Generate CSR  Download .PEM File  Download .DER File

Status

 Status: Ready

Certificate Settings

Locally Uploaded	06/09/25
File Name	tomcat.pem
Certificate Purpose	tomcat
Certificate Type	certs
Certificate Group	product-cpi
Description(friendly name)	Certificate Signed by WIN-9G89V8O9OR2

Certificate File Data

```
Certificate:
Data:
  Version: 3 (0x2)
  Serial Number:
    48:00:00:00:04:61:fc:d3:8c:8f:a1:12:92:00:00:00:00:00:04
  Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
  Issuer: DC = com, DC = stark, CN = WIN-9G89V8O9OR2
  Validity
    Not Before: Sep  6 05:07:47 2025 GMT
    Not After : Sep  6 05:17:47 2027 GMT
  Subject: C = IN, ST = karnataka, L = bgl, O = cisco, CN = cucmpubnew-ms.stark.com
  Subject Public Key Info:
    Public Key Algorithm: rsaEncryption
    RSA Public-Key: (2048 bit)
    Modulus:
```

Regenerate



Generate CSR

Download .PEM File


Download .DER File

CUCMでTomcat証明書にTomcat-trustとして署名するCA証明書をアップロードします。

Upload Certificate/Certificate chain

 Upload  Close

Status


 Warning: Uploading a cluster-wide certificate will distribute it to all servers in this cluster

Upload Certificate/Certificate chain

Certificate Purpose*



Description(friendly name)

Upload File shashaCA.cer


 *- indicates required item.

Tomcat証明書が署名されたら、パブリッシャにアップロードします。プロンプトに従って、関連するサービスを再起動します。

Upload Certificate/Certificate chain

 Upload  Close

Status


 Warning: Uploading a cluster-wide certificate will distribute it to all servers in this cluster

Upload Certificate/Certificate chain

Certificate Purpose*

Description(friendly name)

Upload File pubcucmtomcat15.cer

 *- indicates required item.

Tomcat証明書が署名されたら、パブリッシャにアップロードします。プロンプトに従って、関連するサービスを再起動します。

成功：証明書がアップロードされました。ディザスタリカバリのバックアップを実行して、アップロードされた証明書が最新のバックアップに含まれるようにします。

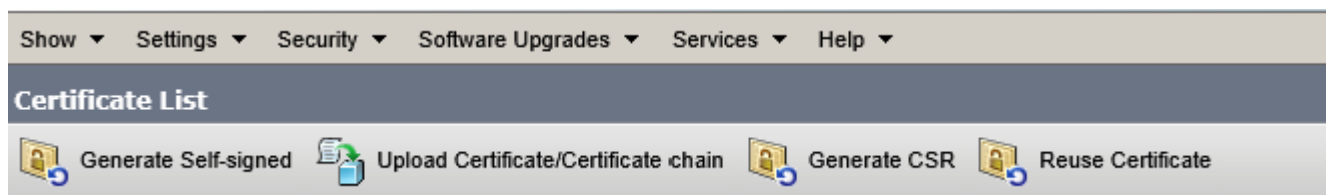
CLI 「utils service restart Cisco Tomcat」 をすべてのクラスターノード(UCM/IMP)で使用して、Cisco Tomcat Webサービスを再起動します。CLI 「utils service restart Cisco UDS Tomcat」 および 「utils service restart Cisco AXL Tomcat」 をすべてのUCMクラスターノードで使用して、Cisco UDS TomcatおよびCisco AXL Tomcat Webサービスを再起動します。また、パブリッシャノードでCisco DRF MasterサービスとCisco DRF Localサービスを再起動します。サブスクライバノードでCisco DRF Localサービスを再起動します。

Tomcat証明書がCAによって署名されます。

tomcat	cucmpubnew-ms.stark.com 51dc40f400000000000b	signed	IdentityCA-signed	RSA	Multi-server(SAN)	RICKY200-TMS-CA	10/23/2027Certificate Signed by RICKY200-TMS-CA
--------	---	--------	-------------------	-----	-------------------	-----------------	---

CallManager証明書としてTomcat証明書を今すぐ再利用します。

Reuse Certificateをクリックします。



ドロップダウンでTomcatを選択し、CallManager証明書を確認します。

Use Tomcat Certificate For Other Services

Finish Close

Status

Tomcat-ECDSA Certificate is Not Multi-Server Certificate

Tomcat Certificate is Multi-Server Certificate

Source

Choose Tomcat Type* tomcat

Replace Certificate for the following purpose

CallManager

CallManager-ECDSA

Finish Close

[Finish] をクリックします。

Use Tomcat Certificate For Other Services

Status

- i** Certificate Successful Provisioned for the nodes cucmpubnew.stark.com,cucmsubnew.stark.com,.
- i** Restart Cisco HAProxy Service for the generated certificates to become active.
- i** If the cluster is in Mixed-Mode, please regenerate the CTL file and ensure end points download the updated CTL File.

Source

Choose Tomcat Type*

Replace Certificate for the following purpose

CallManager
 CallManager-ECDSA

Tomcat証明書がCallManager証明書として再利用されるようになりました。これはCLIから検証できます。

CallManager証明書シリアル番号(SN):56:ff:6c:71:00:00:00:00:0d

```

admin:show cert own CallManager
Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      56:ff:6c:71:00:00:00:00:0d
    Signature Algorithm: sha384WithRSAEncryption
    Issuer: DC = com, DC = RICKY200, CN = RICKY200-TMS-CA
    Validity
      Not Before: Oct 24 08:44:34 2025 GMT
      Not After : Oct 24 08:54:34 2027 GMT
    Subject: C = IN, ST = karnataka, L = bgl, O = cisco, CN = cucmpubnew-ms.
tomcat.com
  Subject Public Key Info:
    Public Key Algorithm: rsaEncryption
    RSA Public-Key: (2048 bit)
    Modulus:
      00:b4:a6:fa:8f:9a:c3:32:02:74:fa:e9:92:30:de:
      6e:3b:70:cd:d7:4e:64:e4:71:04:fe:17:80:0d:5b:
      44:d1:7f:00:63:69:4a:5c:1a:1b:75:0c:1a:d6:ce:
      10:3f:01:e2:d0:f1:75:33:57:b7:0a:71:e1:60:d1:
      89:3c:e8:a4:8c:3e:30:69:4d:4e:98:da:b8:5d:dd:
      23:8c:4d:69:90:69:9d:43:74:84:20:a8:9f:45:dc:
      5a:aa:7b:c8:d1:d0:6f:05:13:d8:99:58:0e:49:7b:
Press <enter> for 1 line, <space> for one page, or <q> to quit
  
```

Tomcat証明書SN:56:ff:6c:71:00:00:00:00:0d。

```

admin:show cert own tomcat
Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      56:ff:6c:71:00:00:00:00:0d
    Signature Algorithm: sha384WithRSAEncryption
    Issuer: DC = com, DC = RICKY200, CN = RICKY200-TMS-CA
    Validity
      Not Before: Oct 24 08:44:34 2025 GMT
      Not After : Oct 24 08:54:34 2027 GMT
    Subject: C = IN, ST = karnataka, L = bgl, O = cisco, CN = cucmpubnew-ms.tomcat.com
    Subject Public Key Info:
      Public Key Algorithm: rsaEncryption
      RSA Public-Key: (2048 bit)
      Modulus:
        00:b4:a6:fa:8f:9a:c3:32:02:74:fa:e9:92:30:de:
        6e:3b:70:cd:d7:4e:64:e4:71:04:fe:17:80:0d:5b:
        44:d1:7f:00:63:69:4a:5c:1a:1b:75:0c:1a:d6:ce:
        10:3f:01:e2:d0:f1:75:33:57:b7:0a:71:e1:60:d1:
        89:3c:e8:a4:8c:3e:30:69:4d:4e:98:da:b8:5d:dd:
        23:8c:4d:69:90:69:9d:43:74:84:20:a8:9f:45:dc:
        5a:aa:7b:c8:d1:d0:6f:05:13:d8:99:58:0e:49:7b:
Press <enter> for 1 line, <space> for one page, or <q> to quit

```

サブスクライバで同じ手順を実行します。

ECDSA証明書に署名して、CallManager-ECDSAとして再利用できるようにします。

現在のTomcat-ECDSA証明書は自己署名です。

tomcat	10.106.79.162_5aceb67f00000000000f	IdentityCA-signed	RSA	Multi-server(SAN)	RICKY200-TMS-CA	10/25/2027Certificate Signed by RICKY200-TMS-CA
tomcat-ECDSA	cucmpubnew-tc.tomcat.com_4b404cd202f7b4cabf8a9db/8c/11d4b	Identity-self-signed	EC	cucmpubnew.tomcat.com	cucmpubnew-tc.tomcat.com	10/23/2025self-signed certificate generated by system

Tomcat-ECDSA証明書のマルチSAN CSRに署名します。

- Status -



Warning: Generating a new CSR for a specific certificate type will overwrite the existing CSR for that type

- Generate Certificate Signing Request -

Certificate Purpose** tomcat-ECDSA

Distribution* Multi-server(SAN)

Common Name* 10.106.79.162

Include OU in CSR

Subject Alternate Names (SANs)

Auto-populated Domains
cucmpubnew.tomcat.com
cucmsubnew.tomcat.com

Parent Domain tomcat.com

Other Domains
ec.vikdutta.com
vcs8c.s.com

Browse... No file selected.
Please import .TXT file only.



Key Type** EC

Key Length* 256


Hash Algorithm* SHA256

CSRを使用して証明書に署名し、アップロードします。

Upload Certificate/Certificate chain

 Upload  Close

Status

 Warning: Uploading a cluster-wide certificate will distribute it to all servers in this cluster

Upload Certificate/Certificate chain

Certificate Purpose*



Description(friendly name)

Upload File cucmpubecdsa162.cer


Upload Certificate/Certificate chain — Mozilla Firefox

10.106.79.162/cmplatform/certificateUpload.do

Upload Certificate/Certificate chain

 Upload  Close

Status


 Warning: Uploading a cluster-wide certificate will distribute it to all servers in this cluster

Upload Certificate/Certificate chain

Certificate Purpose*

Description(friendly name)

Upload File cucmpubecdsa162.cer

 *- indicates required item.

10.106.79.162

アップロードに成功しました。プロンプトに従って、関連するサービスを再起動します。

Upload Certificate/Certificate chain

Upload Close

Status

- Certificate upload operation successful for the nodes cucmpubnew.tomcat.com,cucmsubnew.tomcat.com.
- Restart the Cisco Tomcat web service using the CLI "utils service restart Cisco Tomcat" on all cluster nodes (UCM/IMP). Restart Cisco UDS Tomcat and Cisco AXL Tomcat web services using the CLI "utils service restart Cisco UDS Tomcat and utils service restart Cisco AXL Tomcat" on all the UCM cluster nodes. Also, restart the Cisco DRF Master and Cisco DRF Local services on the publisher node. Restart ONLY the Cisco DRF Local service on the subscriber node(s).
- If SAML SSO is enabled, please re-provision the SP metadata on the IDP.

Upload Certificate/Certificate chain

Certificate Purpose* tomcat-ECDSA

Description(friendly name)

Upload File Browse... No file selected.

Upload Close

CAによって署名されたTomcatおよびTomcat-ECDSA。

tomcat	10.106.79.162_Saceb67f000000000000f	signed IdentityCA- signed	RSA Multi-server(SAN)	RICKY200-TMS-CA	10/25/2027Certificate Signed by RICKY200-TMS-CA
tomcat-ECDSA	cucmsubnew-CC- ms.tomcat.com_2f0000003880becca8a18e8f23000000000038	signed IdentityCA- signed	EC Multi-server(SAN)	bgclulab-WIN-DC-01-CA	10/25/2026Certificate Signed by bgclulab-WIN-DC-01-CA

ここで、Tomcat-ECDSAをCallManager-ECDSA証明書として再利用します。

Use Tomcat Certificate For Other Services

Finish Close

Status

- Tomcat Certificate is Multi-Server Certificate
- Tomcat-ECDSA Certificate is Multi-Server Certificate

Source

Choose Tomcat Type* tomcat-ECDSA

Replace Certificate for the following purpose



CallManager

CallManager-ECDSA






Finish Close

アップロードに成功しました。プロンプトに従って、関連するサービスを再起動します。

Use Tomcat Certificate For Other Services

 Finish
  Close

Status

-  Certificate Successful Provisioned for the nodes
cucmsubnew.tomcat.com,cucmpubnew.tomcat.com,,
-  Restart Cisco HAProxy Service for the generated certificates to become active.
-  If the cluster is in Mixed-Mode, please regenerate the CTL file and ensure end points
download the updated CTL File.
-  Restart Cisco TFTP service.
-  Restart Cisco CallManager Service and other relevant services on certificate provisioned
nodes.

Source

Choose Tomcat Type* tomcat-ECDSA

Replace Certificate for the following purpose

CallManager
 CallManager-ECDSA

CLIから証明書を確認します。

CallManager-ECDSA証明書SN:2f:00:00:00:38:80:be:cc:a8:a1:8e:8f:23:00:00:00:00:00:38

```

admin:show cert own CallManager-ecdsa
Invalid Certificate Name. Certificate Not Found.

admin:show cert own CallManager-Ecdsa
Invalid Certificate Name. Certificate Not Found.

admin:show cert own tomcat-ECDSA
Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      2f:00:00:00:38:80:be:cc:a8:a1:8e:8f:23:00:00:00:00:00:38
    Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
    Issuer: DC = com, DC = bgluclab, CN = bgluclab-WIN-DC-01-CA
    Validity
      Not Before: Oct 25 06:46:37 2025 GMT
      Not After : Oct 25 06:46:37 2026 GMT
  
```

Tomcat-ECDSA証明書SN: 2f:00:00:00:38:80:be:cc:a8:a1:8e:8f:23:00:00:00:00:00:38

```
admin:show cert own tomcat-ECDSA
Certificate:
  Data:
    Version: 3 (0x2)
    Serial Number:
      2f:00:00:00:38:80:be:cc:a8:a1:8e:8f:23:00:00:00:00:00:38
    Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
    Issuer: DC = com, DC = bgluclab, CN = bgluclab-WIN-DC-01-CA
    Validity
      Not Before: Oct 25 06:46:37 2025 GMT
      Not After : Oct 25 06:46:37 2026 GMT
    Subject: C = IN, ST = karnataka, L = bgl, O = cisco, CN = cucmpubnew-EC-ms.tomcat.com
    Subject Public Key Info:
      Public Key Algorithm: id-ecPublicKey
      Public-Key: (256 bit)
```

現在、TomcatとCallManagerサービス用のTomcat証明書と、Tomcat-ECDSAとCallManager-ECDSAサービス用のTomcat-ECDSAの2つのサービス用の証明書を使用しているため、Expressway信頼ストアに証明書をアップロードする手間が軽減されます (アップロードが必要な場合)。

MRA用のExpressway-CoreでUCMを追加する際に、TLS検証を「オン」にすると、これまで以上に簡単になりました。1つのTomcat証明書CAまたはサーバ証明書を追加するだけで、この作業が実行されます (CallManagerとTomcatサービス間で証明書が共有されるようになったため)。

Publisher address	Username	TLS verify mode	Nodes discovered by this lookup	Deployment	AI's GCM support	SIP UPDATE for session refresh	ICE Passthrough support	Actions
<input type="checkbox"/> cucmice.ice.com	appuser	On	cucmice.ice.com	ice.com	Off	Off	Off	View/Edit
<input type="checkbox"/> cucm11su252.s.com	cucmadmin	Off	cucm11su252.s.com	s.com	Off	Off	Off	View/Edit
<input type="checkbox"/> cucm35.vikdutta.com	appuser	Off	cucm35.vikdutta.com	vikdutta.com	Off	Off	Off	View/Edit
<input type="checkbox"/> cucmpubnew.tomcat.com	ccmadmin	On	10.106.79.166, 10.106.79.162	tomcat.com	Off	Off	Off	View/Edit

Currently found Unified CM nodes	Name	UCM Version	Zone Protocol	Zone Status
cucm.eight10.com	**cucm.eight10.com	11.5.1.10900(97)	TCP	TCP: Address resolvable
cucm11su252.s.com	**cucm11su252.s.com	11.5.1.12900(21)	TCP	TCP: Address resolvable
cucm35.vikdutta.com	**cucm35.vikdutta.com	12.5.1.11900(146)	TLS / TCP	TLS: Address resolvable, TCP: Address resolvable
cucmice.ice.com	**cucmice.ice.com	11.5.1.14900(11)	TLS / TCP	TLS: Address resolvable, TCP: Address resolvable
cucmpubnew.tomcat.com	**10.106.79.162	15.0.1.12900(234)	TCP	TCP: Address resolvable
cucmpubnew.tomcat.com	10.106.79.166	15.0.1.12900(234)	TCP	TCP: Address resolvable

x14.2以降へのアップグレードが原因でモバイルリモートアクセスが停止している場合は、この包括的な[ドキュメント](#)で問題のトラブルシューティングも参照できます。

Apacheトラフィックサーバのバージョン履歴

サーバのバージョンを確認するには、rootにログインして `~ # /apache2/bin/httpd -v` を実行します。

Expressway x8.11.4

サーババージョン : Apache/2.4.34(Unix)

構築サーバ : 2018年11月12日 19:04:23

Expressway x12.6

サーババージョン : Apache/2.4.43(Unix)
構築済みサーバ : 2020年5月26日 18:27:21

Expressway x14.0.8

サーババージョン : Apache/2.4.53(Unix)
構築済みサーバ : 2022年5月4日 08:52:57

Expressway x15.3

サーババージョン : Apache/2.4.62(Unix)
構築済みサーバ : 2025年7月16日 12:10:19

Expressway x15.4

サーババージョン : Apache/2.4.65(Unix)
構築済みサーバ : 2026年1月14日 06:41:03

Expressway x15.5

サーババージョン : Apache/2.4.66(Unix)
構築済みサーバ : 2026年3月16日 15:57:19

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。